

小笠原諸島振興開発事業のあり方調査

(アンケート調査結果)

< 抜粋 >

平成14年3月

東京都総務局行政部

1 アンケート調査の目的

都が実施した平成13年度小笠原振興開発事業各種調査「小笠原振興開発事業のあり方調査」の一環として、小笠原諸島における返還以降の各事業に対する評価及び行政需要を把握するため、村民の生活状況や小笠原諸島振興開発事業の評価、今後の意向に関するアンケート調査を実施した。

2 アンケート調査の対象及び方法

小笠原村に住民登録されている住民から、公務員住宅等公務性の強い住居に居住する世帯を除く1,000世帯（ほぼ全世帯）を任意抽出し、郵送及び戸別訪問により配布し、回収箱及び戸別訪問により回収した。

3 回収状況

有効回答数は、412件（41.2%）であった。

| | 配布数 | 回収数 | 有効回答数 | 回収率 |
|----|-------|-----|-------|-------|
| 父島 | 813 | 357 | 342 | 43.9% |
| 母島 | 187 | 76 | 70 | 40.6% |
| 計 | 1,000 | 433 | 412 | 43.3% |

4 回収アンケートの属性

(1) 年齢構成

30～34歳が一番多く、ついで50～54歳が多かった。19歳以下及び65歳以上の階層は、あわせて16%であった。

(2) 性別

男性が62%、女性が38%であった。

(3) 世帯構成

世帯主が72%を占め、世帯構成としては、単身世帯が37%であり、世帯人員3人以下の世帯が83%であった。

(4) 居住状況

返還後、新たに小笠原に住んだ人は81%であった。

(5) 勤務状況

常勤者は45%、パート・アルバイトは17%であり、勤務内容としては、各業種ほぼ均等であった。

5 アンケート結果

住民の68.4%は、小笠原に住み続けたいという意向を持っている。
一方、17.9%は、島を離れたいと意向を持っている。

< Q 1 >

島に住み続けるための障害としては、住民の約1/4が「医療施設の不足」をあげている。ついで「交通アクセスの不便さ」、「不安定な仕事」、「高い物価」、「住宅問題」などをあげている。

< Q 2 >

小笠原での生活については、「自然環境」、「道路・港湾」設備に対する満足度が高く、ついで「島内交通」が続く。

一方、不満度が高いものは、「物価」、「医療体制」、「金融機関」となっている。これに続き、不満度の高いものを順に並べると、「東京との交通アクセス手段」、「雇用機会」、「生活物資の供給体制」、「娯楽施設」、「通信サービス」、「景観・街並み」、「住宅環境」、「文化環境」となる。

「総合」では、約6割の住民が小笠原の生活に特に不満を抱いていない。

< Q 3 >

小笠原振興開発事業全般に対しては、16.1%の住民が「満足している」と回答している。一方、13.6%の住民が「満足していない」と回答している。

また、「ふつう」と回答した人は、15.8%であり、「満足しているものもあれば満足していないものもある」と回答した人は、全体の約1/4を占めている。

< Q 4 >

今後の小笠原における事業に対しては、約半数の住民が「ソフト事業」にも眼を向けた施策に転換するべきであるとしている。

< Q 5 >

17年のT S L就航にあたり、1 / 3の住民が「観光客が増える」と考えている。ついで「経済が活性化する」と考えている住民が16.0%と続く。また、「医療体制が改善される」と考えている住民が13.9%いる。

< Q 6 >

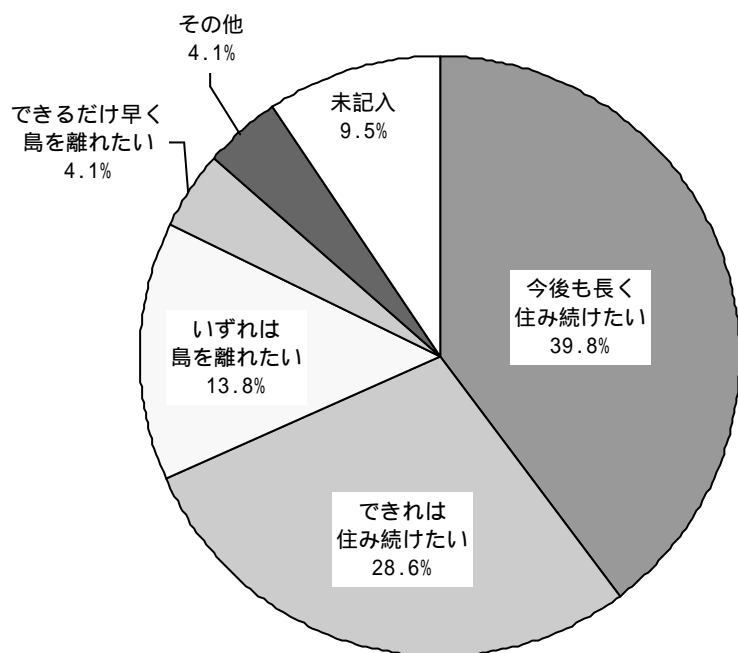
T S L就航や、将来の航空路の開設に向け、地元としては「自然保護対策」が重要であるとする住民が多い。また、「宿泊施設の整備」や「観光施設の整備」が重要であるとする住民も多い。

< Q 7 >

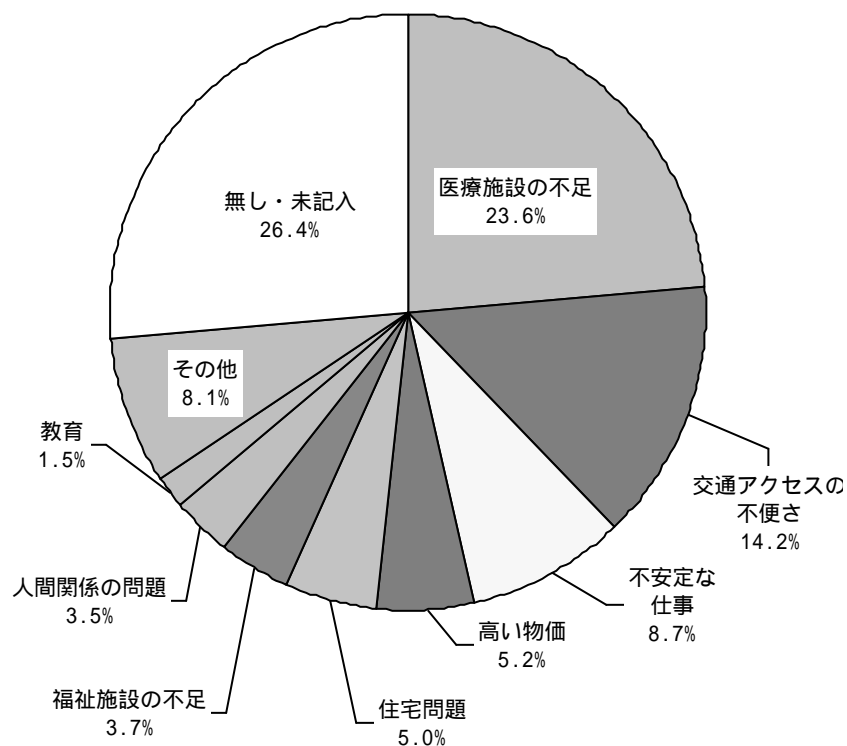
I Tについては、42.5%の住民が「もっとI T環境を整備して欲しい」と感じている。また、「よくわからない」が31.1%、「未記入」が14.3%となっている。

< Q 8 >

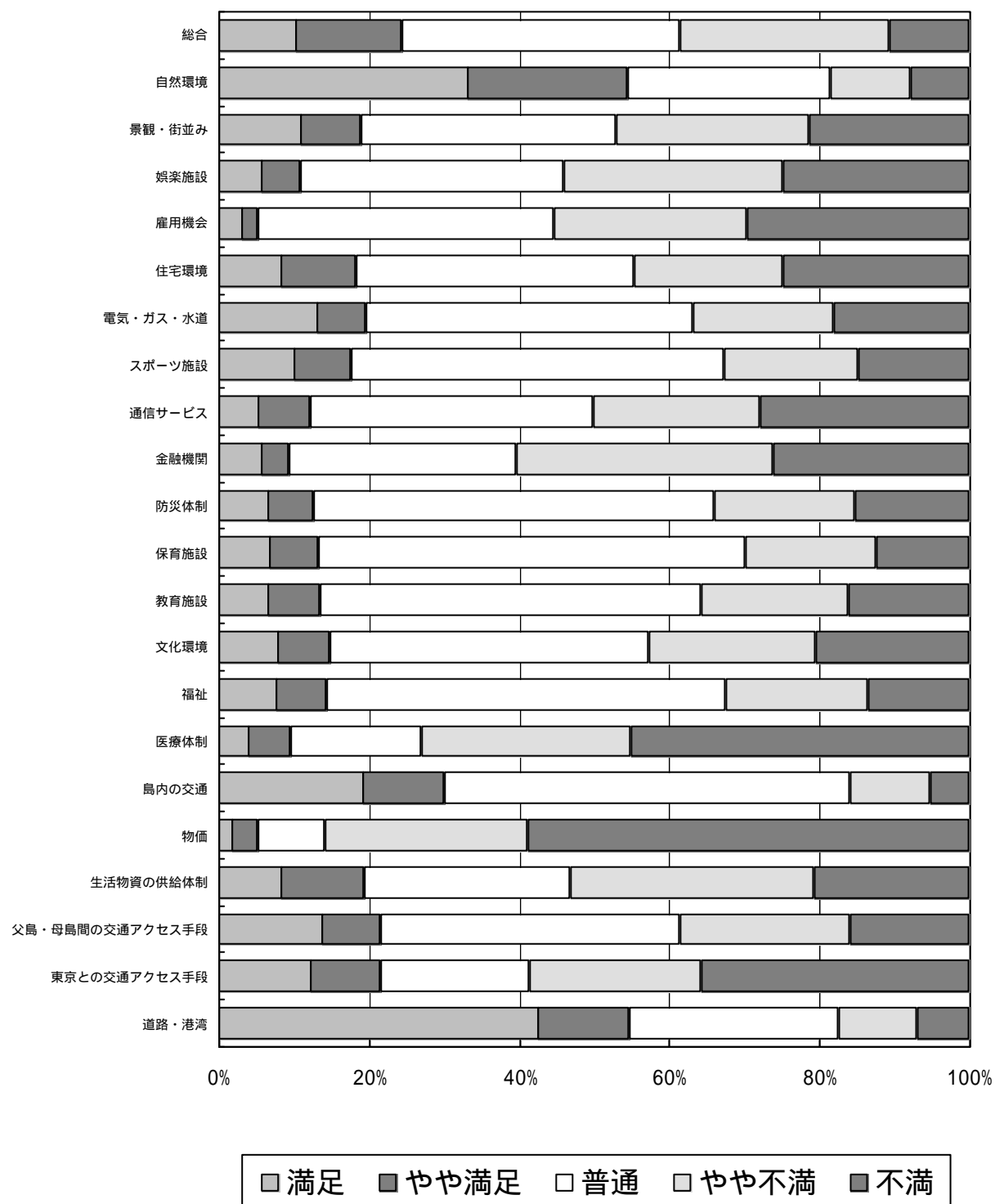
Q1 あなたは小笠原にこれからも住み続けたいと考えていますか。



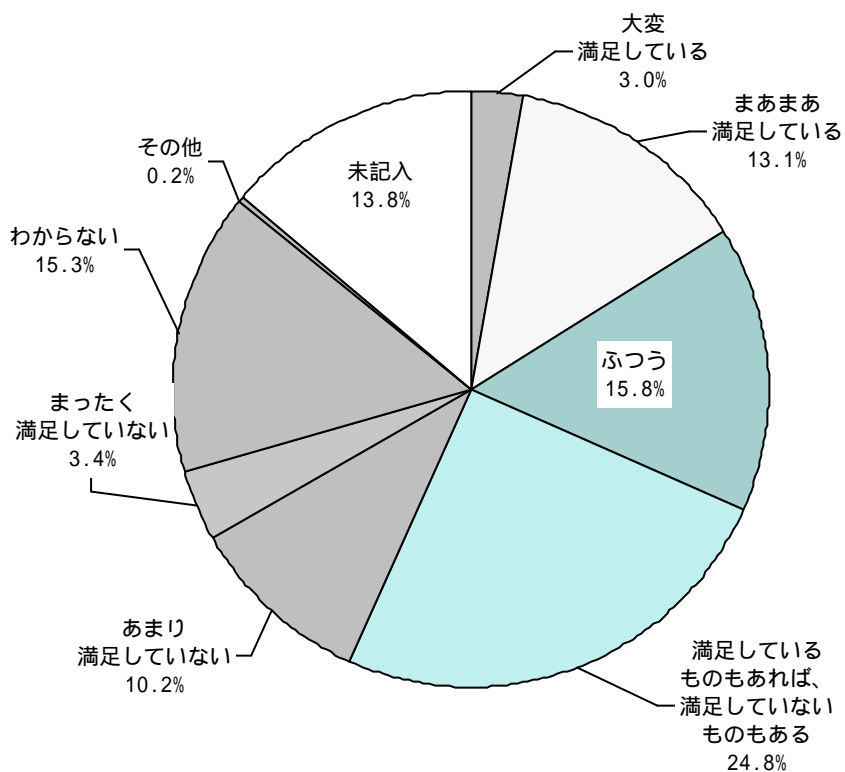
Q2 あなたにとって島に住み続けるための最大の障害があるとすれば何だと思いますか。具体的にお答えください。



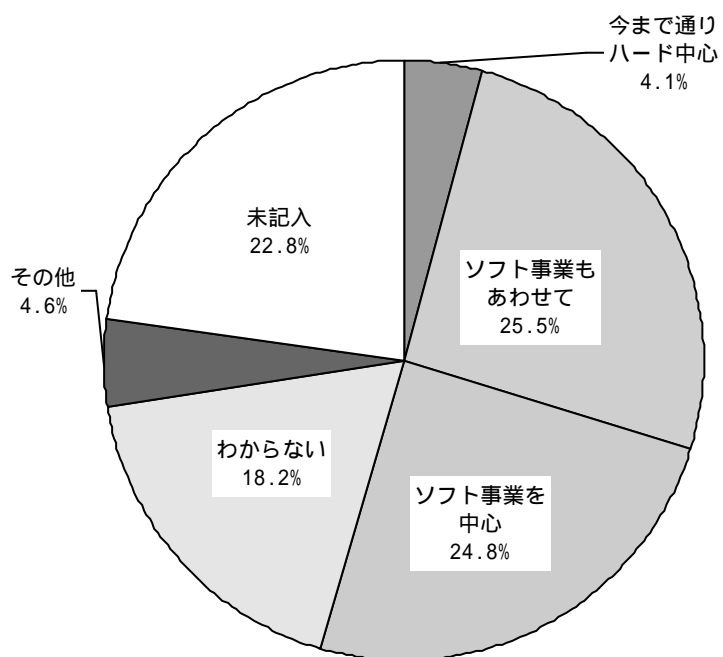
Q3 小笠原での生活の満足度をお伺いします。
 次の項目について、あなたの考えに近いものを1つ選んで をつけてください。



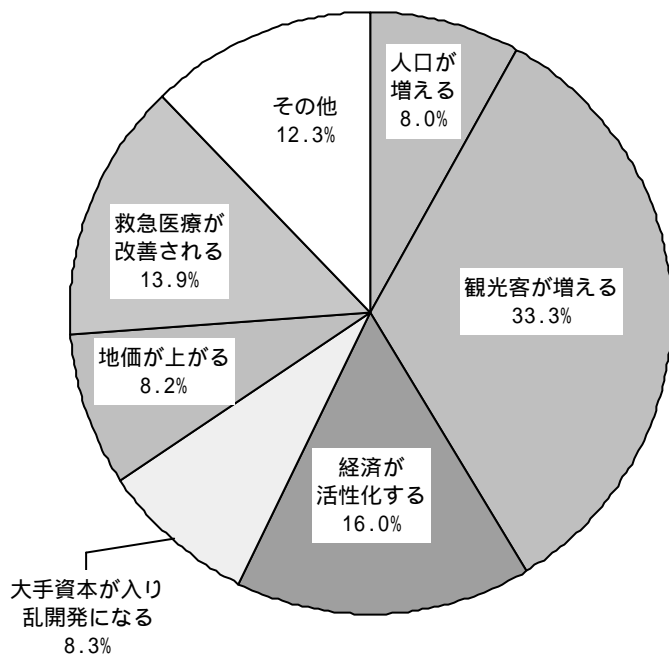
Q 4 今まで実施してきた小笠原諸島振興開発事業全般に対して、あなたはどのような評価を持っていますか。



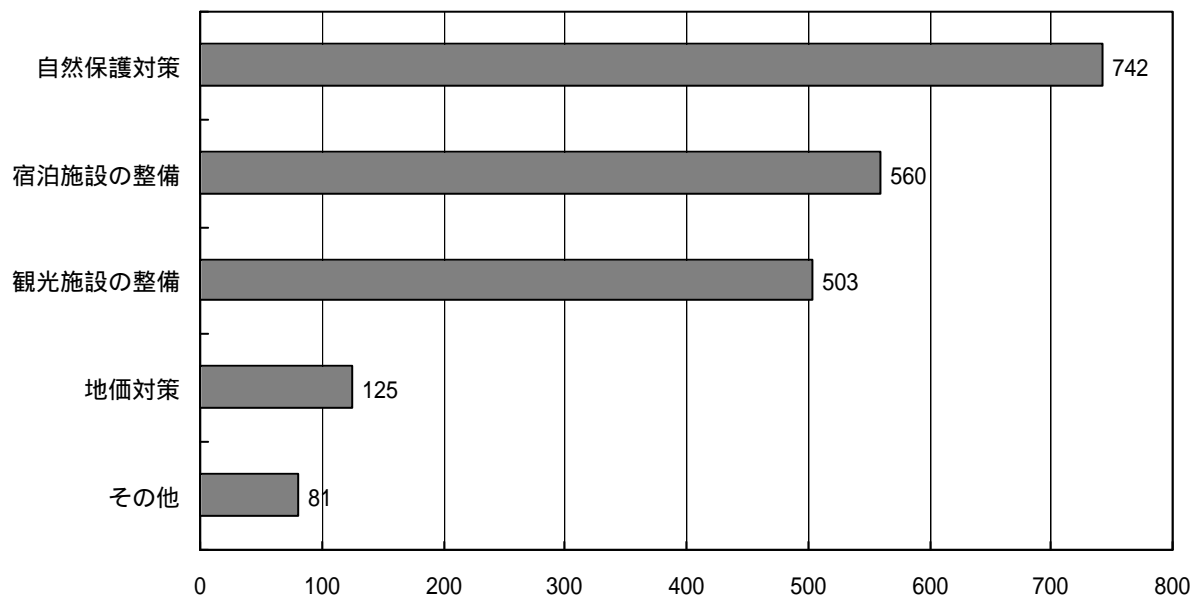
Q 5 今後、小笠原諸島における事業は、どのような方向に進むべきだと思いますか。



Q 6 3年後を目標に、小笠原航路にT S L（テクノスーパーライナー）という高速船が導入され、東京・父島間がおよそ16時間程度に短縮される見込みです。このT S Lの運行によって小笠原はどのように変わると考えますか。3つまで選んで をつけてください。



Q 7 T S Lや航空路の開設に向けて、今後、地元の立場からどのような対策が重要になってくると考えますか。以下の項目から選んで、順位をつけてください。



< 第1位から第3位まで順位をつける方式で回答。第1位3点、第2位2点、第3位1点とし、ポイント化して集計 >

Q 8 IT（情報通信技術）社会が到来したと言われていました。
小笠原におけるITの状況について、あなたはどのように感じていますか。

